

出場できて嬉しい!

吉川 賢一さん (下町2区)

平野 直之さん (上町)

山本 義隆さん (並木)

富田 桂市さん (下町3区)

第78回選抜高校野球大会に出場する県立真岡工業高等学校野球部のメンバーにお話を伺いました。

今回の大会には、上三川中学校出身の2年生吉川賢一さん、平野直之さん、山本義隆さん、富田桂市さんの4人が出場します。21世紀枠での出場が決まった時に、吉川さんは「とても嬉しかったです。」、平野さんは「生きている中で一番嬉しかったです。」、山本さんは「高崎商業に破れたときは、可能性が無いと思っていたので、嬉しかったです。」、富田さんは「夢だったので嬉しかったです。」と笑顔で話してくれました。

4人にプレートのアピールポイントを尋ねてみました。吉川さんは「野手の間をぶち抜くようなバツフルなバッティングをアピールしたいです。」、平野さんは「ピッチャーなので、コントロールと変化球の切れを見ていただきたいです。」、山本さんは「確実な守備とチームのムードを

今月の輝ける星

盛り上げていきたいです。」、富田さんは「正確なバントと声に注目してください。」、それぞれ個性的な特徴をあげてくれました。

目標は、全員が「1回戦突破。」と力強く答えてくれました。中学校時代のからの同級生ということもあって、息がぴったりなの4人ですが、甲子園の大舞台ではつらつとしたプレーを見せてくれると思います。

日頃の、練習の積み重ねで勝ち取った甲子園出場。出場チームの中でも、失策が少なく守備のイメージがあります。が、攻撃的な守備をアピールし、大会を盛り上げてほしいです。



左から平野さん、吉川さん、町長、富田さん、山本さん

をかけて栽培を行ったとのこと。

角田さんのお宅では、約10年前からレタスの栽培を始めて、現在レタスのほかにトウモロコシと米を栽培しています。専門部会について尋ねると「年々レタス栽培を行う人が減って、高齢化になっている。比較的簡単にできる作物なので、若い人たちが増えてくれればいいですね。」と今後の希望を語ってくれました。



わが町の農産物



レタス 編

今月の農産物はサラダ料理の主役、レタスです。

JA うつのみやレタス専門部会支部長の角田喜一郎さん(下神主)に話をうかがいました。

レタス専門部会には、春レタスと秋レタスの2つの部会があり、春レタスには28人、秋レタスには30人が所属しています。

今年の春レタスは比較的順調で、良いレタスが収穫されているとのこと。しかし、昨年の秋レタスは、11月の大霜で被害が出てしまったとのこと。

春レタスは、10月中旬頃に種を蒔き、11月上旬に定植。収穫は1月下旬から3月まで行います。春レタスは比較的病害虫の被害には遭わないので、病気がないように2回程度消毒をするそうです。秋は路地栽培ですが、春レタスはトンネル栽培で行っています。寒さには強いとのことですが、今年は特に寒さが厳しかったため、トンネル内のレタスの上にパオパオ(寒さや霜、病害から守る農業用ベタがけ資材)



レタスは漢字では「乳草」と書きますが、語源となる茎や葉などを切ると出てくる白い液体には、ラクチュコピクリンというポリフェノールが含まれています。このラクチュコピクリンには、沈静作用が含まれており、朝よりも夜に食べると、睡眠がしやすくなるとのこと。特に、軽く炒めて食べるとより吸収しやすいとのこと。

今後の目標について尋ねると「消費者の皆さんに美味しいレタスを提供したいので、一生懸命栽培していきたいです。」と力強く意気込みを語ってくれました。